

「バレンタイン殲滅作戦」

松馬羊志

【登場人物表】

田中美奈（17） 女子高生

鈴木優子（17） 美奈と同じ高校の女子生徒

増田（17） 美奈と同じ高校の男子生徒

○高校・廊下（朝）

田中美奈（二七）、増田（二七）に紙袋を差し出す。

増田「何これ？」

美奈「ちよ、チョコ……です」

増田「あー」

男子、紙袋を奪い取る

増田「サンキューね」

増田、行ってしまふ。

ポツンと取り残される美奈。

優子の声「何、勘違いしてんだ。田中美奈」

振り返ると鈴木優子（二七）の姿。

美奈「2組の鈴木さん？」

優子「バレнтаインだから、勇気を出して告

白していいと思ったか？バカか。バレン

タインはイケメンとイケジョの特権階級に

だけ許されたイベントだ」

美奈「え？」

優子「我々のようなスクールカーストの末端にすら入れないエタ非人には、なんの関係

もない、365日の中のごく普通の1日でしかないんだ」

美奈「……」

優子「それにあいつ」

帰っていく先程の増田を指差し。

優子「呼び水代わりに使うぞ」

美奈「？」

○（イメージ）同・教室

増田、教室へ戻る。

優子の声「教室に帰って」

増田、さりげなく、しかしわざと目立つように紙袋を机の上に置く。

増田「あゝあ、参っちゃうなあ」

集まってくる男友達。

男友達「おい、それ、チョコか！」

増田「チョコそんな好きじゃないんだけどな」

とチラッと遠巻きの女子たちを見る。

優子の声「そうやって、俺モテるアピールをして、他の女子達に焦らせて告白させよう

って魂胆だ」

○（戻って）同・廊下（朝）

優子と美奈。

優子「だが、その作戦も虚しく終わる。そして夜、自分の愚かさを恥じるのだ。本意ではない一つだけのお前のチョコをかじりながらな」

美奈「あ、食べてくれるんだ！」

優子「しっかりしろ、田中美奈！男達にバカにされてんだよ。所詮、女なんて恋愛で頭がいっぱいな下等な生き物だ」と

美奈「……」

優子「そこでだ」

優子、ノートを見せる。

優子「私はこの悪しき慣習を終わらせようと思う」

ノートには『バレンタイン殲滅計画』とタイトルがある。

美奈「バレンタイン殲滅計画？」

開くと、バレンタイン当日に学校を爆破する方法。インフルエンザウイルスを撒く方法。など書いてある。

美奈「学校を爆破……」

優子「そう。しかし、学校の爆破はこちらもリスク高い。なので警報器を鳴らす計画を実行する」

美奈「警報器？」

優子「いいか、告白の一番多い時間帯はいつだと思おう？」

美奈「え？いつ？」

優子「放課後だよ」

優子「私はこの数年、データをとってきた」

○（回想）同・屋上

双眼鏡を覗く優子。

○（回想）双眼鏡の中の景色

向かいの校舎で女子が男子にプレゼントを渡している。

○（回想）同・屋上

優子、カウンターを一押しする。

○（戻って）同・廊下（朝）

優子「その放課後に、報知器を鳴らし、全告

白の邪魔するのだ」

美奈「なんか……くだらない」

優子「その実行チームにお前を指名する。私

はお前をずっと見てきた。共に戦うんだ、

田中美奈！」

美奈「え……」

○（回想）同・教室（昼休み）

一人、ぽつんと弁当食べる美奈。

周りには楽しそうに友達と弁当を食べている。

美奈、ミニトマトを箸で取り、口に運ぼうとする。

しかし、会話に夢中の前の席の女子の肘が当たり、ミニトマトを落とす。

転がるミニトマト。追いかける美奈。  
拾おうとした時、じゃれあう男子達の  
足に踏まれるミニトマト。  
男子達は気づかず行ってしまおう。  
潰れたミニトマトを見つめる美奈。

○（戻って）同・廊下（朝）

優子、美奈に手を差し出す。

美奈「私は……いいかな……」

美奈、教室へ帰っていく。

優子「放課後、待ってるぞ」

○同・教室

入ってくる美奈。

男子生徒達がニヤニヤ美奈の方を見る。

見ると増田の席の上に美奈のチョコ。

増田、困った表情で、しかし自慢げに

している。

俯いて自分の席に座る美奈。

美奈の握り締める拳。

○同・廊下（放課後）

トロフィーなどが並ぶガラスケースがある。

双眼鏡で窓の外を見ている優子。

美奈やっけてきて。

優子「来たか。田中美奈」

○双眼鏡の中の景色

優子の声「見ろ。バカどもが、何も知らずに告白しようとしている」

向かいの3階で告白しようとしている

男女。

屋上で告白しようとしている男女。

中庭で告白しようとしている男女。

○同・廊下（放課後）

優子「目にももの食らわしてやる」

優子、モップを手に取り、ガラスケースに向かい、勢いよく振り上げる。  
固唾を飲む美奈。

増田の声「鈴木さん！」

優子、ピタッと止まり後ろを振り返る。

増田、手に花束を持っている。

優子「増田……君？」

増田「あ、うん。あのさ、ずっと前から想っ

てただけけど、もう我慢できなくて……」

優子「うそ……」

優子、モップを落とす。

増田「鈴木さんにこの気持ちをどうしても伝

えたくて……」

美奈、モップを拾い、振り上げる。

優子「やめろ！」

美奈のモップはガラスケースをぶち破る。

警報器のけたたましい音。

先生の声「何やってんだ、お前ら！」

優子「ちっ！逃げるぞ！」

増田「え？あ、ちよつと」

逃げる優子と美奈。

○道（夕）

優子と美奈、並んで歩いて帰る。

優子「やってくれたな。田中美奈」

美奈「ごめん」

優子「私に増田を取られると思ったか？」

美奈「それは……違うかも」

優子「？」

すると、増田が追いかけてくる。

増田「鈴木さん！」

優子、美奈をギロツ見る。

美奈、不安そうな顔。

増田「今日バレンタインだろ？海外ではさ、男が花束を贈るって言うから、それでさ」

増田、花束と手紙を優子に差し出す。

嬉しそうな優子。

増田「吉崎さんに渡して欲しんだ」

優子・美奈「ん？」

増田「鈴木さん、吉崎さんと幼馴染みだろ？」

優子・美奈「……」

優子、ため息をついて、手紙と花束と

地面に叩き付け、踏みつける。

優子「渡したかったら、自分で渡せ！」

歩きだす優子。

追いかける奈美。

美奈「ねえ」

優子「何だ」

美奈「来年は爆破にしよう」

優子「だな」

美奈「ねえ」

優子「ん？」

美奈「明日も一緒に帰れる？」

優子「ああ。明日から計画を練るぞ」

美奈「ねえ」

優子「うるさいぞ。田中美奈」

美奈「もし告白されたら、付き合ってた？」

優子「私は男を見る目があるんでね」

美奈「(笑って)そう」

優子と美奈、肩を並べ歩いていく。

(終わり)